

昭和55年度作況一覽

秋まき小麦	えん麦	大豆	小豆	ばれいしょ	てんさい
やや良	良	不良	良	良	良

I. 気象概況

4月から10月までの概況は次のとおりである。

4月：

中旬が2.2度低い極低温であった。降水量、日照時間も非常に少なかった。低温、寡雨、寡照であった。

5月：

上旬が低温、中旬が高湿下旬は4.1度高い極高温であった。降水量は中旬が少なく、日照時間は上旬が少なかった。高湿、寡雨、寡照であった。下旬には夏日を4日記録した。

6月：

上旬が5.2度高い極高温、下旬が高温であった。降水量は上旬が多く、日照時間は中旬が多かった。極高温多雨、寡照であった。上旬には真夏日を2日記録した。

7月：

下旬がやや低温であった。降水量は上旬で少なく、日照時間は上、中旬で少なかった。寡雨、寡照であった。

8月：

上旬が低温、中旬と下旬は3.2度と2.6度低い極低温であった。降水量は上旬が全くなく、中、下旬が非常に多かった。日照時間は中、下旬は平年約く50%で非常に少なかった。極低温、寡雨、寡照であった。

9月：

中旬が高温、下旬が2.8℃低い極低温であった。降水量は上、中旬で少なく、下旬が多かった。日照時間は中旬で少なく下旬が多かった。全般に低温、寡雨、寡照であった。

10月：

下旬が2.6度低い極低温であった。降水量は上、中旬で少なく、下旬が多かった。日照時間は中旬で少なく、下旬が多かった。全般に低温、寡雨、多照であった。

以上、農耕期間(4月～10月)の積算平均気温は、3055.4℃で平均(3111.2℃)より55.8℃低い程度であったが、旬別で見ると、高温と低温の較差が非常に大きかった。降水日数は91日で平年(77日)より14日多かったが、降水量は541.0mmで平年(680.2mm)より139.2mm少なく、平年の88%であった。日照時間は1085.8時間で平年(1276.5時間)より190.7時間少なく、8月上旬、9月下旬および10月下旬の3旬以外は寡照であった。平年の約85%であった。

II. 昭和55年度の作況

1. 秋播小麦 昭和55年度の作況: やや良

事由: 播種期は9月13日で平年並みであった。秋期は概して高温、多雨に経過したため生育は進み、茎数多く、軟弱傾向にあった。平年に比し、根雪始は5日、根雪終は6日遅かったが、雪腐病の発生は少なかった。融雪後5月上旬まで低温に経過し、起生後の生育は一時停滞ぎみであったが、5月中旬より6月上旬にわたり高温となり回復した。その後の生育は概ね順調に推移し、出穂機は「ホロシコムギ」は2日早く「タクネコムギ」が1日遅かった。7月に入りやや寡雨であったが、寡照に経過したため成熟期はやや遅れ、また赤さび病の発生も少なく、登熟条件は比較的よかった。成熟期における稈長はやや短く、穂数は5月中、下旬の高温が影響し減少したが、穂長は長く、千粒重がやや重く、多収となった。

以上により、昭和55年度の作況はやや良である。

品種名 項目/年次	ホロシコムギ			タクネコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(昭55.月.日)	9.13	9.13	0	9.13	9.14	△1	
出穂期(昭56.月.日)	6.11	6.13	△2	6.8	6.7	1	
成熟期(昭56.月.日)	7.26	7.25	1	7.21	7.18	3	
成熟期に おける	稈長(cm)	97	97	0	88	92	△4
	穂長(cm)	8.8	8.5	0.3	8.4	8.1	0.3
	穂数(本/m ²)	566	577	△11	509	539	△30
子実重(kg/10a)	474	464	10	440	409	31	
千粒重(g)	43.8	41.6	2.2	38.8	38.6	0.2	
子実重平年対比(%)	102	100	2	108	100	8	

注) 平年値は前7か年中、「ホロシコムギ」は昭和49年、52年を除く、「タクネコムギ」は昭和50年、54年を除くそれぞれ5か年平均。

2. えん麦 昭和55年度の作況: 良

事由: 4月下旬の寡照と5月上旬の降雨により耕鋤が遅れ、播種期は平年に比し6日遅く5月10日であった。発芽も遅く、6月中旬まで極め適温が高く経過したため早魃傾向となり、初期生育はやや抑えられた。その後、出穂頃まで草丈は低く推移したが茎数は多く、7月下旬以降は低温に経過し、出穂の草丈の伸長が著しかった。登熟後半の8月上旬は降雨がなかったが気温は低く、中旬の寡雨のより平年より3日遅れた。登熟日数はほぼ平年並みであったが、概して低温に経過し、また、倒伏などの障害が少なく、登熟は良好であった。穂数は平年に比し約30%多く、千粒重も重く、a当り子実重は平年比110%となった。以上により、昭和55年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	オホーツク			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.10	5.4	6	
出芽期(月.日)	5.23	5.18	5	
出穂期(月.日)	7.14	7.12	2	
成熟期(月.日)	8.17	8.14	3	
草丈 (cm)	6月20日	41.4	49.8	△8.4
	7月20日	111.4	118.6	△7.2
	8月20日	124.7	120.6	4.1
茎数 (本/50cm畦)	6月20日	70.5	57.4	13.1
	7月20日	48.3	39.9	8.4
	8月20日	47.1	36.3	10.8
成熟期に おける	稈長(cm)	103	98	5
	穂長(cm)	21.7	22	△0.3
	穂数(本/m ²)	314	237	77
子実重(kg/10a)	380	345	35	
リットル重(g)	439	480	△41	
千粒重(g)	37.7	33	4.7	
子実重平年対比(%)	110	100	10	

注) 平年値は前7か年中、昭和53年、54年を除く5か年平均。ただし、草丈および茎数は前6か年平均。

3. 大豆 昭和55年度の作況:不良

事由:播種は平年より2日早く、発芽期も平年より早かったが、発芽は全般的に不揃いであった。初期生育は5月下旬から6月上旬にかけて晴天の日が多く高温に経過したため良好であった。6月中旬下旬が多雨、寡照、7月上旬が寡雨、中旬は気温が高く、降水量が多いぐずついた天候が続いたため、大豆はやや徒長ぎみな生育を示した。7月下旬から8月下旬までは冷たいオホーツク海高気圧の影響を受けた。特に8月中旬～下旬までは極低温、多雨、寡照に推移した。9月に入り中旬は気温は平年並みで降水量は極少なく、中旬は高温、寡雨、寡照で台風13号があり風が強く、生育が徒長気味であったため倒伏が全般的に目立った。下旬は低温、寡雨となり大豆の生育はやや干ばつを呈した。10月上旬はほぼ平年並みの気象、中旬もやや低温、寡照であったが平年並みに推移した。成熟期は中生種「ユウヒメ」「北見白」はほぼ平年並みであり、晩生種「ユウヅル」は平年より2週間遅れた。着莢数は「北見白」「ユウヒメ」がやや平年より少なく、「ユウヅル」は多かった。百粒重は「北見白」「ユウヒメ」が平年より増大し、「ユウヅル」は減少した。子実収量は「北見白」が301kg/10aで平年比94%、「ユウヅル」239 kg/10aで平年比79%、「ユウヒメ」277kg/10aで平年比83%であった。

以上により、昭和55年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		北見白			ユウヅル			ユウヒメ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.15	5.17	△2	5.15	5.17	△2	5.15	5.17	△2
出芽期(月.日)		6.4	6.7	△3	6.4	6.7	△3	6.4	6.10	△6
開花期(月.日)		7.22	7.23	△1	8.2	7.3	3	7.24	—	—
成熟期(月.日)		10.3	10.4	△1	10.27	10.14	13	10.4	10.1	3
主茎長 (cm)	6月20日	11.2	7.0	4.2	11.1	7.1	4.0			
	7月20日	24.8	28.2	△3.4	24.7	25.7	△1.0			
	8月20日	56.1	50.8	5.3	67.4	63.1	4.3			
	9月20日	57.0	51.4	6.0	71.0	64.4	7.0			
	成熟期	54.0	51.0	3.0	75.0	64.0	11.0			
主茎葉数 (葉)	6月20日	1.4	0.6	0.8	1.4	0.5	0.9			
	7月20日	6.5	6.7	△0.2	5.6	6.8	△1.2			
	8月20日	11.8	11.9	△0.1	13.6	13.1	0.5			
	9月20日	13.4	13.3	0.1	15.4	14.7	0.7			
	成熟期	12.8	13.1	△0.3	16.0	14.9	1.1			
分枝数 (本/株)	7月20日	1.5	1.7	△0.2	3.0	3.4	△0.4			
	8月20日	6.4	6.1	0.3	7.6	4.6	3.0			
	9月20日	6.4	5.6	0.8	6.3	4.5	1.9			
	成熟期	5.9	5.8	0.1	5.2	4.1	1.1			
着莢数 (莢/株)	9月20日	80.0	71.8	8.2	53.0	55.6	△6.0			
	成熟期	68.5	71.4	△2.9	59.1	53.1	6.0			
子実重(kg/10a)		301	319	△18	239	301	△62	277	335	△58
百粒重(g)		28.7	26.5	2.2	39.4	42.1	△2.7	44.7	40.8	3.9
虫喰率(%)		0.5	0.6	△0.1	3.8	0.9	2.9	2.7	1.5	1.2
品質(等級)		2	2	—	2	2	—	2	2	—
子実重平年対比(%)		94	100	△6	79	100	△21	83	100	△17

注) 平年値は前7か年中、昭和50年、53年を除く5か年平均。ただし、「ユウヒメ」は前年の値。

4. 小豆 昭和55年度の作況:良

事由:播種は平年より4日早く、発芽期は5日早かった。初期生育は6月の高温で順調に進み、開花期も平年並みであった。7月下旬から8月下旬までは気温は低く経過し、8月中、下旬は特に低温であったが、生育は平年よりむしろまさり、特に分枝数は多かったが、莢の伸長は遅れ気味であった。9月は天候が比較的順調であったが、8月の低温で莢の伸長、登熟が遅れ成熟期は9月16日で平年より6日遅れた。着莢数がやや多かったのに加えて、登熟期間の延長により千粒重が、平年より重くなり、また一莢粒数が多かったために、子実重は10a当り268kgであった。病害としては灰色かび病が一部に発生したが、被害は少なかった。

以上により、昭和55年度の作況は良である。

品種名 項目/年次		宝小豆		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.18	5.22	△ 4
出芽期(月.日)		6.12	6.17	△ 5
開花期(月.日)		7.28	7.28	0
成熟期(月.日)		9.16	9.10	6
主茎長 (cm)	6月20日	3.7	1.7	2.0
	7月20日	12.5	11.4	1.1
	8月20日	37.3	34.9	2.4
	成熟期	34.7	35.6	△0.9
主茎節数 (節)	7月20日	5.0	4.8	0.2
	8月20日	10.5	10.5	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	1.1	0.7	0.4
	8月20日	3.3	2.3	1.0
	成熟期	2.8	2.1	0.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	30.1	29.3	0.8
	成熟期	38.2	35.2	3.0
子実重(kg/10a)		268	209	59
百粒重(g)		11.4	10.3	11
屑粒率(%)		4.7	4.3	0.4
子実重平年対比(%)		128	100	28

注) 平年値は前7か年中、昭和50年、54年を除く5か年平均。

5. ばれいしょ 昭和55年度の作況:良

事由:5月10日にほぼ平年並みに播種した。播種後は6月上旬まで気温高く経過し、萌芽はやや早く、初期生育はおおむね順調であった。その後8月上旬まで、概して寡雨、寡照に経過したため茎葉伸長は抑えられ、終花期における茎長は平年比に対し6~14cm低かった。また、病疫の発生が抑えられた。8月中、下旬は多雨となり病疫は蔓延したが、「男爵薯」はすでに茎葉の黄変が進んでおり、中晩生品種の「農林1号」は9月に入って再び寡雨に経過したため、蔓延は緩慢で、枯凋機は平年より4日遅く、9月26日であった。本年の夏期は概して冷涼、寡雨な気象経過で、茎葉の伸長、繁茂が抑制され、塊茎の肥大がよくでん粉値高い傾向にあった。上いも重の平年比は「男爵薯」が112%、「農林1号」は108%と、それぞれ以上により、昭和55年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	農林1号			男爵薯			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	5.10	5.8	2	5.10	5.11	△1	
萌芽期(月.日)	6.4	6.5	△1	6.6	6.10	△4	
開花期(月.日)	7.5	7.5	0	7.6	7.8	△2	
枯凋期(月.日)	9.26	9.22	4	9.3	9.6	△3	
茎長 (cm)	6月20日	24.1	18.7	5.4	15.8	12.8	3.0
	7月20日	52.9	59.6	△6.7	36.2	42.8	△6.6
	8月20日	62.7	76.2	△13.5	41.9	48.0	△6.1
茎数 (本/株)	6月20日	4.8	4.7	0.1	4.3	3.3	1.0
	7月20日	5.1	7.7	0.4	3.8	4.0	△0.2
	8月20日	4.9	4.9	0.0	4.2	3.8	0.4
上いも重(kg/10a)	4,195	3,895	300	3,714	3,330	384	
でん粉価(%)	16	13.5	2.5	15.5	12.8	3.4	
上いも重平年対比(%)	108	100	8	112	100	12	

注) 平年値は前7か年中、「農林1号」は昭和51年、52年を除く、「男爵薯」は昭和50年、54年を除くそれぞれ5か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

6. てんさい 昭和55年度の作況:良

事由:根雪終は平年並みであったが、その後の不順な天候のため、耕鋤始めは平年より2週間遅い5月8日であった。移植期は平年より約1週間遅い5月11日であった。移植後は気温が高く、ほ場の土壌水分が適度であったのと平年のような強風がなかったため、活着は極めて良かった。5月下旬と6月上旬が平年に比べ、それぞれ4.1℃と5.2℃も高い極高温で経過したのと降水量が適当であったので、初期生育における草丈の伸長と葉数の増加は極めて良かった。生育中期以降は、低温で経過したため、地上部の生育は鈍化したが、病害虫の発生が少なかったため、ほぼ平年並で推移した。一方、地上部が早期に形成、維持されたため、根部の肥大は極めて旺盛で、7月下旬以降の低温も障害とならず、その良好な肥大は収穫期まで続いた。一方、9月に入ってから地上部の退色が順調であったので、根部の旺盛な肥大にかかわらず、根中糖分は、ほぼ平年並みに達した。

以上により、昭和55年度の作況は良である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノドリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.2	4.2	0
移植期(月.日)		5.11	5.5	6
収穫期(月.日)		10.17	10.19	△2
草丈 (cm)	5月20日	5.1	4.4	0.7
	6月20日	31.3	17.0	14.3
	7月20日	49.2	44.5	4.7
	8月20日	55.0	51.5	3.5
	9月20日	56.1	57.2	△1.1
	収穫期	54.8	53.7	1.1
葉数 (枚)	5月20日	3.2	4.1	△0.9
	6月20日	11.5	9.9	1.6
	7月20日	17.3	17.6	△0.3
	8月20日	23.4	24.3	△0.9
	9月20日	31.3	28.4	2.9
	収穫期	32.4	25.9	6.5
根周 (cm)	7月20日	24.4	18.7	5.7
	8月20日	34.5	28.4	6.1
	9月20日	38.6	33.5	5.1
	収穫期	40.0	35.6	4.4
茎葉重(t/10a)		7.07	5.35	1.72
根重(t/10a)		7.44	5.67	1.77
根中糖分(%)		16.5	16.63	△0.13
糖量(t/10a)		1,220	941	279
根重平年対比(%)		131	100	31
根中糖分平年対比(%)		99	100	△1

注) 平年値は前3か年平均。